

¡Hola amigos!

RとNの Málaga からの手紙

(007号)

皆さんこんにちは。

このページは、私達のスペインでの日々の暮らしを友人・知人の皆さんに知って頂こうと思って開きました。 ですからごく私的なもので、読者のかたも大なり小なり私達をご存知だという想定で作成しています。そのつもりでご覧下さい。

各項の更新は不定期ですが、なるべく毎週末迄に何らかの更新をするつもりです。

更新日を確認の上各項目を選択してください。

2003年 7月18日 R & N

目次	更新日
身辺雑記	2003年 7月18日
食べある記	2003年 7月18日
買い物百般	2003年 7月18日
エクスカーション	2003年 7月18日
ビーノあれこれ	2003年 7月18日
セルベサ・その他	2003年 7月18日
バック・ナンバー	2003年 7月18日

ご注意 : 各項目のファイルは更新日から一ヶ月を経過したら削除します。

悪しからず。

* 身辺雑記 *

この項は、私達の日常生活の折々の出来事や、発見や、驚きや、疑問について、とりとめもなく勝手なゴタクを並べたものです。

「花火大会」ノ巻 2003年7月18日 更新

16日の晩は花火大会でした。大会というにはあまりに短いもので20分位でアツという間に終わってしまいました。日本の各地でこれから始まる大規模なものとは大分趣が違います。これもやはり宗教行事の一環らしく市のポスターにはなにやら船に乗った聖女と花火が画かれていて VELADILLA DEL CARMEN というのがお祭りの名前のように、私達にはこれが何なのか分かりません。

このポスターには花火をやるよ、会場はマリーナだよ、とは書いてあるのですが、何時からとは書いてないのです。マリーナならウチから最短距離の海岸で丸見えのはずなので、じゃ行ってみようと言っていました。始まりがわかりませんが、前にもミドナイト頃から突然花火が鳴り出し30分ぐらい続いた事があったので、まあどうせそんなもんだろうと思っていました。ちなみにそのときの花火が何だったのか結局未だに分かっていません。とにかく最初の一発が鳴ったら出かけようと言っていました。

10時半すぎにドーンと来たので、すぐ飛び出しました。けれども途中ちょっと見晴らしがいい所へ差し掛かった頃、どうやらもうピークになっているような感じだったので暫くそこで見ていました。近くには何組かのイギリス人らしい老夫婦もいて多分その人たちも海岸を目指していたのだと思います。ところがそこから少し海よりに行くと、立ち木やビルに遮られてしまうので、動くに動けない状態になってしまいました。海岸に行き着くまでに終わってしまったらマヌケな話ですからね。

案の定、そこで暫くみているうちに、どうやらもうフィナーレらしく一段と激しく上がって、オシマイ。モタモタと海岸まで行っていたらほとんど何も見ずに終わってしまうところでした。

まあ、折角出てきたのだからと、そのまま海岸まで出てみました。もう11時を回っているのにドコからこんなに出てくるんだというほどの人出で、遊歩道は車椅子の年寄りからバギーの赤ん坊まで人通りが絶えません。

日中の暑さは軽く37～8度はあるのにこの時間になると24～5度まで下がっています。短パン・ティーシャツで飛び出したので海岸を少し歩いているうちに寒くなってしまい早々に帰ってきました。

私達が海岸へ着いた頃、私達と同じ考えで海岸で花火見物を終えたい人たちが帰り始めているところでした。この人たちは始まりの時間を分かっているのでしょうか？ でも、どうしてそれがわかったのでしょうか。

多分この人たちも私達が見たポスター以外の情報はもっていなかったのだらうと思います。今日花火があるということだけで、暗くなってからずっと海岸で待っていたに違いありません。

私達は長期滞在とはいえ、あくまで行きずりの外国人としてここに一時的にいただけで、住民登録もしているわけでもなく、この土地の人たちと特別なつながりを持っているわけでもありません。そんな私達に何を言う権利もありませんが、どうもこの町の行政には分かりにくいことが多いように思います。例えば、バスは市営ではありませんが公共のアンであることは同じですからもう少し市民も観光客も利用しやすい運営を考えるべきです。このバスが分かりにくいのは我々外国人ばかりでなく、地元のスペイン人もしょっちゅうドライバーに聞いていて、それでもなおかつクエッション・マークをアタマに乗っけています。

ゴミの処理や街路の清掃も莫大な費用をかけている割には、やる事がチグハグです。スーパーでも個人商店でもみなそうですが、分からなければ聞けばいいじゃないか、という考えが当たり前のようです。その代わり聞けば丁寧に教えてくれます。一人の客の質問に答えるため、バスが遅れようがレジが詰まろうがお構いなし。忙しい日本人には耐えがたいところもありますね。

でも、まあ日本のお役所だって、左手のやっている事を右手は知らないなんてことはしょっちゅう体験した事だから、そんなにビックリすることでもないか。

* 食べある記 *

この項では、スペイン独特のメニュー、私達がこのあたりの飲食店で外食したときのエピソード、などをご紹介します。

「チューロ」の巻 2003年7月18日 更新

churro と書きます。例の巻き舌の発音です。小さいものですから勿論一つでは足りず、注文して食べるときは churros と複数になります。

スペインの人の朝食、特に朝からバルで外食という人たちには欠かせないもののようです。一言で片付ければ「柔らかいひも状のかりんとう」でしょうか。

店によって、ひも状、棒状、またはそれを馬蹄形にしたものと色々な形があるようです。共通項は断面が星状になっている事。揚がりを良くするためなんでしょうね。

またまたカディスで恐縮ですが、カディスに居たある朝、スペイン最古だといわれる市場に行きました。ほかの日はバルで野菜サラダなど食べていたのですが、これが馬鹿にならないくらい高いんです。ビーノ・デ・カサ、即ちハウス・ワイン一本より高いんです。馬鹿馬鹿しいじゃありませんか。そうかといってさすがに朝からビーノ！と言うのはばかるとし、今朝はどうしようと思っていたところに、目の前にチューロ屋の屋台がありました。同じような屋台が何軒も並んでいるんです。

風呂桶のように大きな油鍋の上に天井からこれまた大きいステンレスの注射器のお化けのような物を吊っています。この注射器から柔らかく練ったうどん粉を熱いオリーブ・オイルの中にしぼり出すんです。この店ではらせん状にしぼりだしていました。材料については自信ありません。基本的には小麦粉と塩・水を練り合わせたものだと思います。それぞれの店にそれぞれの秘伝があるのかもしれませんが。

そして、頃合を見計らって大ざるですくいます。一丁揚がり、です。この屋台では2キロ、1キロ、メディオ、クワルト、ミニモ、と5段階に値段をつけてあって量が多いほど少しずつ割安になっています。

私達は迷わずミニモ・最少、60銭。そして屋台の反対側にあったスーパーでプラスチック入りの野菜サラダとしぼりたてのオレンジ・ジュースも買って用意OK。

近くの海岸遊歩道のへりに腰かけて、足元からドコまでも広がる大西洋を眺めながら朝食です。日本にもチューロを売っているところはあるようですが、私達には初物です。揚げたてのせいか、皮はさっくり中はフワフワ、揚げ物の苦手なRにも美味しく食べられました。しかしその量には参りましたねー。ミニモと言ったのに、もう店じまいの寸前だったからなのか、珍しいハポネスにちょっとサービスしてくれたのか、とてもミニモ、なんていう量ではありませんでした。

もう一つ参ったのはスーパーで買った野菜サラダ。透明プラスチックの中にもフォークが見えていたので、当然ドレッシングもついていてと思い込んでいたのに、何にもなし。朝からとんだヤギサンでした。それにしてもどういふつもりなんでしょうか。単にこのパックにだけドレッシングを入れるのを忘れたのか？ またはそういうものなのか？ レストランなどのサラダもドレッシングではなく、テーブルに常時出している塩・胡椒・酢・オリーブ油を自分で適当に振り掛けるのが普通です。それならそういうセットを入れてくれればいいのにフォークだけじゃどうにもなりません。

チューロには色々バリエーションがあるらしく、あげた後砂糖を振り掛けたものもあるようですし、初めから材料に味付けをしたものがあったとしても不思議ではありません。

どちらも私達の感覚では朝食用としてはちょっとどうかと思います。

プレーンな塩味だけのものは案外サッパリ味でしたが、これとて毎朝続けて食べると言われたら、降参です。こういうものを食べつけているから、あの堂々たるオバさんが出来上がるのでしょうか。

カトリックの国は概して若い女性はスッキリホッそりなのに、結婚した途端、堂々たる体躯に豹変するのは何故か？ ひとつには、離婚が難しい宗教ゆえ安心するのだという説があるそうですが、どうなのでしょう。食べ物の影響も大いにあると思うんですが……。気をつけましょう。

* 買い物百般 *

この項は、私達の日常の買い物全てについて、異国だナーと感じた事や、安さに感激した事、なぜ？ どうして？ と思ったことなどの紹介です。

「オニカサゴ」の巻 2003年7月18日 更新

わが町ベナルマデナ **Benalmádena** には常設公営市場はありません。電車で15分位の隣町には3箇所もあって羨ましい。

買い物は勿論日常生活には必要不可欠ですが、それだけでなく、異国の市場というのは意外な発見が多く、市場での買い物は私達にとって大きな娯楽でもあるんです。

先日、この隣町フエンヒロラ **Fuengirola** の、駅から一番近い市場に行きました。

この市場へは、以前ヴィノの項でお話したマラガ酒などを買いに、少なくとも月2回多いときは3~4回出かけます。行けば当然周りの魚屋・八百屋なども覗きます。

地中海マグロも以前ここで腹身のいいのを手に入れたことがあり、十数軒、軒を連ねた魚屋は必見です。

先日は、丁度一匹付け煮付けにピッタリサイズのオニカサゴを見つけました。

沖釣りをなさるかたにはお馴染みの名前ですが、船頭や釣師がオニと大雑把に片付けるのは多くの場合ニセフサカサゴという別種です。ここのは標準和名のオニカサゴに近いものでした。はじめハカリにかけたときは二尾で4.2ユーロと言ったのですが、

どう切る？というのに、そのままと返事したら、じゃ4ユーロ、でした。

この辺では多分魚介類ゴタ混ぜのスープ、ソパ・デ・マリスコス **Sopa de mariscos** などに使うことが多いのだと思います。

味は上々。カサゴ・ファミリーそのもので、煮付けにはぴったりでした。久しぶりに白いご飯と味噌汁で「準」日本食。「純」と言い切れないのが辛いところ。

連れは何時もの通りビーノ、この日は冷えたシロ。



魚屋のやさしそうなオヤジ。手前からタコ、オニカサゴ、イワシ、アジ。



オヤジのオヤジ。一見オニカサゴ、でも愛嬌もアル、いいオヤジ。

エクスカーション

遠足です。この項では私達が今住んでいるアンダルシアの各地へ徒歩、電車、バスなど又はこれらの併用で行った DAY TRIP をご紹介します。

「ミハス」の巻 2003年7月18日 更新

Mijas です。アンダルシアの白い村というキャッチフレーズで旅行案内などにはたい
てい出ている所ですからご存知の方も多いと思います。

私達の所を通るミハス行きバスで30分位ですが、それがナカナカそう簡単ではない
ことは既にお分かりですね。だから、私達はここへゆく時は電車で終点の隣町まで行
き、そこ始発のバスに乗ります。さすがに始発ならこないということはありません。
直行バスで行くほうが安いし早いはずなのですが、なかなかこないバスを待つてオマ
ケに混んでいるんじゃ話になりませんから、電車・バスの確実性をヨシとします。

村のたたずまいはこれまた多分皆さんのイメージにある「スペインの村」そのもので
特にどうということはありません。お決まりの白い壁、青い空、細い坂道、釣鉢に植
えられた赤い花などなど。

日本からのツアー客も結構来ていて大勢のグループを見かけることが良くあります。
私達も二人だけで何回か、人を案内しても複数回行ってはいますが、やはりいいのは人
の少ない冬です。ヒソソリした白壁の村を、冷たく澄んだ空気の中で静かに散策する
のはいい気分です。こういうところへ観光客のいない時期に行けるのはある種の贅沢
と云っていいでしょう。

冬がいい、と言うもう一つの理由は視界の良さです。高いところにある村ですから当
然見晴らしは抜群ですが、視界が良くなくては折角の見晴らしも生きません。

私達のはじめてここに行ったのは去年の12月半ばの事です。

その日は寒冷前線の通過した後の日本で言う冬型の気圧配置でした。山の上はかなり
の冷え込みでしたが視界は抜群で、言葉どおりの青い空、青い海でした。

そしてなんとアフリカ大陸を見たのです。ミハスからジブラルタル海峡のアフリカ側

は直線距離ではせいぜい百三十キロ程ですから視界さえよければ高い山は見えて当然です。けれどもその後何度も、行く度に見ようと思うのですが、見えたのはこのとき一回だけでした。そして先月、カディスへのバス旅行の途中、タリファの近くで見たアフリカの山は、見覚えある形のもので、やはりあの時見たのはこれだったんだと合点しました。船乗りは冬場房総沖から富士山が見えるとろくな事はないと言います。遠くの山が見えるのは冬型で海上は大時化、天気晴朗なれども波高し、なのです。

現役の頃は富士山を遠くから見たいなんて思ったことはありませんでした。



ご存知、白い壁、青い空、赤い花そして細い坂道。アンダルシアの白い村。



村内タクシー。



こちらは一人乗り。

* ビーノあれこれ *

この項はこれまでに呑み較べた数々のワインを、独断と、偏見と、小さな財布の中身とでどれがイイ、これがイイと勝手に決め付けたもので、ソムリエ協会とは何の関係もありません。旨い不味の判断は、異性の相性と同じく「タデ喰う虫も・・・」ですから、保証の限りではありません。

「赤のベスト・スリー」の巻 2003年7月18日 更新



7月半ばまでに制覇した赤の銘柄は119種となりました。4月半ばには既に100種に達していた事を考えると、それ以後はガクッとペース・ダウンです。100種目制覇を報告した諸兄弟からは、さては調子でも狂ったかのご心配をいただきそうです

が、決してそうではありません。

私達の通常購入範囲は5ユーロ未満のもの、という制限をしていることは最初にお話ししましたが、この範囲となるとさすがにそろそろ新顔を見る機会が減った事と、既に知った安くて旨いものを呑み返して確認をしているため、こなす本数ではきっちり週5本のペースを堅持しているものの、銘柄数は増えていないのです。

今日はこれまでの試飲で特に気に入ったものから三本を選んでご紹介致します。

まず左 **Viña Albali Tinto Reserva 1996** 現在の最安値、堂々の2.69ユーロ。

中央、**Señorio de los Llanos Gran Reserva 1997** 現在の最安値、3.85ユーロ

そして右、**Monte Ducay Gran Reserva 1994** 現在の最安値 3.99ユーロ

現在のとシツこく言った理由は、このところ諸事万端値上がりで、例えば最初の一本は私達がここへ来た当初は2.55ユーロで買えましたし、2本目はついこの間までは3.59ユーロでした。三本目はありがたいことに据え置きで頑張っています。

各スーパーごとの値段もマチマチで、一本目のは高いところでは3.35なんて値段を平気でつけています。もう一つややこしいのは、全般にヴィノが安いスーパーでも特定の銘柄についてはヨソがもっと安いというケースもあり、オフエルタ **oferta** という安売りの札がつくとさらにこんがらかってきます。

だからどのビーノはどのスーパーが安いかというだけでなく、それぞれの底値を知っておかないと3~4本まとめて買う時はすぐ一本分丸々損したり得したりするワケ。

こうなったら記憶力の勝負です。

はじめの数十本の間はアレはいくら、コレはと暗記していたのですが百本近くなるともういけません、お互いに混乱してしまっしまいにゃケンカです。

最近自ら作った味見表のプリント・アウトを持ってスーパーめぐりです。変な日本人が何か書類を見ながらヴィノ売り場をウロウロしているなどと目に付いてはいけないので、こっそりと見ようとすると余計「怪しげ」でこまります。

いじましく値段ばかりくどくどと言ってしまいましたが、格調を取り戻しましょう。

左と中央の銘柄の下に **Valdepeñas** という字が読み取れますか？ 右のにはメイン・ラベルの下に **Cariñena** と書いた小さなラベルがあり、その下にチョット小さくて読

みにくいですが **Denominación de Origen** と書いてあります。これが前々号でお話した **D.O.** です。左の二本の **D.O.** は瓶の裏側の下のほうにやはり同じような小さなラベルを貼っています。

Valdepeñas バルデペーニャスはイベリア半島のほぼ中央ドンキホーテで有名なラ・マンチャ地方の一番南、そして **Cariñena** カリニェーナはマドリー(ド)の北東、サラゴサという町の南西至近の地方です。

左の **Reserva** レゼルバというのは樽と瓶合わせて36ヶ月以上そのうち最低12ヶ月は小樽で熟成させることという条件を課されます。又右側二本の **Gran Reserva** はさらに厳しく小樽で24ヶ月、瓶で36ヶ月以上となります。

また、それぞれの葡萄の品種や収穫年による出来・不出来など私達にもラベルを調べれば分かることが幾つかありますが、あまり長くなるのもウツウしいのでこの辺でハシヨります。要はウマきゃいいわけです。

日本でこの三本が手に入るかどうか？ ビーニャ・アルバリはかなり大きなボデーがらしくて、この名前のついたものには色々なグレードのものがあり、私達が見たことのあるものだけでも赤・白・ロゼをあわせると10種ほどになります。一番高いものは10数ユーロで、ここに紹介したものは安いほうから数えた方が早いことは確かです。この銘柄の高いものならデパ地下など大きい売り場では可能性あるでしょう。そして肝心のアジは？ これはもう皆さんご自身で味わって結論を出して頂くしかありません。この三本はもう随分と呑み返しをして、私達の評価は固まっています。

ご参考までにお知らせしておきます。晩酌指定は3ユーロまで即ち一本目だけ。

一番左のビーニャ・アルバリ・四つ星、セニョリオ・デ・ロス・ヤーノスとモンテ・デュカイの二本は確固たる五つ星。なあんだ、やっぱり値段どおりじゃないか、とお思いでしょうが、さにあらず。ここではあくまで5ユーロ以内のものだけの比較ですね。実際は5ユーロ以上のものも呑んでいて、そういうものが必ず五つ星、というわけではありません。この三本に限ってたまたま値段どおりの評価になっただけです。もちろん私達の舌と財布と機嫌と独断と偏見による評価だということは言うまでもありません。ソムリエ協会にはナイショです。

セルベサ・其の他

この項は、この辺のスーパーで手軽に買えるスペインとEU諸国のビール、及びその他のスペイン特産の酒類についての体験資料です。

例によって、旨い、不味い、は独断と偏見と財布の中身で決まります。

「泡のないコパ」の巻 2003年7月18日 更新

この辺に無数にあるバル。私達のピソからも11軒のバルが見えます。

朝10時、遅い朝食の客がチラホラ。それから昼過ぎ頃まではポツポツ、午後1時を過ぎると俄かに賑やかになり、2時から3時頃が昼食のピークでしょう。

4時から6時頃までは客もほとんどいなくて7時頃まで閉めてしまう店もあります。8時を過ぎる頃から又ぽつぽつと客が来始めて満席になるのは10時からミドナイトにかけてです。0時を過ぎるとそろそろ店じまいが始まり早い店は1時までには閉まります。この近所で一番遅くまでやっている店もさすがに2時を過ぎると帰り支度です。こうして辺りが完全に静かになるのは2時半から3時というところでしょう。でも、それ以後も時々雄叫びが聞こえますから、どこかほとんど終夜営業の店もあるのでしょうか。Rもひところはエンエンと朝までということもありましたが、今は昔。

こんなところがこのご近所の7月に入ってから様子です。5～6月以前とのはっきりした違いは若い観光客が増え、年金組みが減ったということでしょう。年金組みは減ったのではなく単に日中の暑さを嫌って昼間出歩かないので目に付かないだけかも知れません。又は暑い間は北の本国へ文字通りの避暑に行っているのかも。

バルのテラスはドコでも通り道同様、というより通り道にテーブルを並べてしまうのですから、人が呑み食いしている脇をすり抜けるように通らなければならない所がほとんどです。

そして、通り抜けのたびに気が付くことは、ほとんど誰も呑んでいないということ

す。確かにコパ **copa** (足つきグラス)、カーニャ **caña** (筒状の長いタンブラー)、バソ **vaso** (足つきでないグラス)などを前においてはいますが、その多くは空か、中身が残っていても泡の全くないセルベサだったり、です。

彼らはテーブルを占拠するため一杯のセルベサなりサングリアなりカフェなりを注文するんですね。決してセルベサを呑むため、またはカフェを飲むため座ったのではなく、座るために飲むフリをするわけです。

Rにはこれが出来ません。座ったら即呑む、呑んだら即オカワリ。どうも、余裕というものがなくてイケません。ここで生活するようになって少しは気短かな性格も修正されつつあるようには自覚できますが、セルベサの泡が完全になくなるまで置いとくなんてことは到底出来そうもありません。

はっきり言って本当はあまり外食が好きではないんです。セルベサだってビーノだって自分の好みのものはあるわけで、ポッと入ったバルやレストランにピッタリのそれがあるなんてことは望むべくもなく、食べる物だってほとんどの場合何かにかにかの不満な点があるんです。うちでお気に入りの呑み物を片手に、料理にはアアだコウだと注文をつけて作ってもらうほうがイイに決まっています。でもまあそうやってしまっただけはおしまいですから、やはりたまには外の空気も吸収ということになります。稀には思いがけない発見もないことはありませんし、Nの好奇心を満たすためにも、新しいレパートリー開発のためにも・・・。



ピソの中庭、午前8時の静寂。



昼下がりパラソルの花が咲く。

バック・ナンバー

この項は、昨年11月の入国から一部の友人にメールしていた近況報告の数々を編集したものです。いっぺんにすべてのバックナンバーを掲載するのは時間的に間に合わないので、順次時間ができ次第追加してゆきます。更新日と番号にご注意ください。

* * * * *

「カルナバルの夜」ノ巻 (2003年3月5日)

2003年7月18日更新

2月末から、街はクリスマスや正月にやっていたようなイルミネーションに飾られていました。目抜き通りには横断幕のような形で、通りごとに違う色々なデザインの電飾で彩られるのです。クリスマス・正月にはクリスマス・ツリーや星や橇とトナカイなど如何にもそれらしいものでしたが、カルナバルのデザインはピエロの顔・蝶々・花、など春の風物をかたどったものが目立ちます。

この州で発行されたカレンダーで見ると2月28日が祝日になっていますからこの日が本番なのでしょうが、どうやら隣接の町ごとに少しずつずらしてお祭りをやるらしく、この町とあの町と必ずしも同じではないようです。とにかくお祭り好きで、一つの理由でなるべく長く楽しもうとしているみたいです。

祝日も全国共通のもの、各自治州ごとのもの、に加えて町ごとのものもあり何がなんだか分かりません。まあ、私達は365日休日ですから、その日が何なのか知らなくても一向に困る事はありません。

私達もマラガのカルナバルの夜を楽しみに出かけました。有名なりオのカーニバルのような派手さはなくどちらかというと宗教色が強いような印象を受けました。私達はまだ未体験ですが、スペインではどちらかというとカルナバルより、この後4月にあるセマナ・サンタというお祭りの方が重要な意味を持つらしいのです。

特に今年はカルナバルの期間にあわせたように雨の日が続き、文字通り水をさしたようになってしまいました。写真はマラガの街の様子ですが、私達が着いた時はパレードが通った後で大勢の人がぞろぞろしていただけでした。マヌケな話です。

スペインの人たちにとってはまだ寒い時期でもあるので、リオのようなサンバのリズムに乗った盛り上がりは無理なのかも知れません。今年の冬はスペイン全土で異常に雨が多く、特に北のほうではかなりの洪水被害が出ているようでテレビでもしょっちゅう報道しています。このアンダルシア州でもいつになく雨が多いのだそうで、普段あまり雨がないうところで大雨になると、思いがけない被害も出るようです。

先日長期滞在許可証（通称タルヘタ）をもらうための最終手続きのため隣町にある国家警察の分署に出向き、指紋押捺などしてタルヘタの引換券を貰ってきました。その帰り、マラガまで足を伸ばして港周辺を散歩していたら、私服警察官に職質をされてしまいました。Rはアチコチの港で何度も同様の経験をしているので、特に驚きもしませんでした。Nは職質などはじめての経験でチョットひるんだようでした。

改めてここは外国なんだということを実感したワケです。

日本では西洋人がはっきり外国人だと分かるのと裏返しに、ここでは東洋人はとても目立つ存在です。二人の職質の私服氏は日本のパスポートをみてチョット緊張を解いたようでした。彼の言では、最近中国人が麻薬取引など違法な行為で得た大金を持ち歩いていることがあるからと、暗に私達を中国人と間違えたいらしいような風でした。

ドコの国でも大なり小なり同じようなことを言いますが、この国の犯罪も外国人グループによるものが多いとされています。特にマドリー(ド)やバルセロナで頻々と起きている日本人観光客を狙った路上の引ったくり等は、そのほとんどがアラブ系の不法滞在者によるものだ、とも聞きます。この辺では危険のニオイはほとんど感じませんが、私達もカモさんにならぬよう充分の用心しているつもりです。なにせ日本人は最も狙いやすく、彼らにとっては絶対安全パイだと定評があるようですから。



写真はカルナバルの夜のマラガ銀座、Calle del Marqués de Larios の雑踏。この子供達が向っているのはパレードの終着点のお祭り広場、Plaza de la Constitución。

「お化粧直し」ノ巻 (2003年3月20日)

2003年7月18日更新

2月末には娘が同僚を連れて一週間、3月に入ってすぐ娘が留学中お世話になったイギリスの老婦人、ついで日本からの最初のお客様である私達の友人夫妻の訪問と相次いで、暫くの間賑やかな日々が続きました。

周りの様子もすっかり春めいて、というより春を通り越して一気に初夏という感じになりました。これからがこのアンダルシアの観光シーズンの本番なのでしょう。海岸を散歩しても明らかに2月までの様子とは違い、人の行き来が多くなりました。

いま、町は観光シーズンを迎える準備にオオワラワという状態です。

切れたままになっていた街灯の修理、街路樹やフラワー・ポットの手入れ、ペンキの塗りなおし、道路の高圧洗浄などなどです。この辺の歩道はほとんどタイル張りなので高圧洗浄機で水洗いすると見違えるように綺麗になります。この町の清掃やゴミ処理にかけている予算は大変なもので、さすが観光でもっている所だと思います。

市当局はこのように膨大な予算を計上して環境の美化に努めているのですが、住民の意識は残念ながらあまり感心できません。ゴミは一日3回、回収車が来るのですが、それを上回るゴミが出されるし、ゴミの出し方にもルールがないのですぐに散らかり放題になってしまうのです。その大部分は付近の飲食店や八百屋兼よろず屋等が出す業務上のゴミです。少なくとも業務上のゴミ出しに対しては何らかの指導をすればいいのと思えます。バルや八百屋と清掃班とのいたちごっこです。

もう一つ住民側のまずい点はペット犬の落し物です。自分の愛犬の始末をする人はホントに稀なのです。ですからどこを歩いても油断もすきもありません。ニチャツときでも誰にも文句のいいようがありません。上を向いてアルコウ、などといっているとたちまちヌルツとくる事請け合いです。Rもこの5ヶ月間に2回やってしまいました。Nはゼロ。Rは昂然、Nはうつむき加減というわけでもなく、単に注意力の問題でしょうが、フンマンやるかたないとはこのことです。

訪れる観光客が多くなるとともに、今までほとんど目に止まらなかった日本人の姿もチラホラ見かけるようになりました。かつて勇名を馳せたノーキョーオジサン的グループは皆無で、代わって登場は元気なオバサン御一行、そして結構目に付くのが中年以降の夫婦連れ。ここはやはりリタイヤ組みの目指す所なののでしょうか。ところで、いま中年というのはどのくらいを言うのでしょうか？ 広辞苑には40歳前後とありますがいまだき40歳を中年とは実感としてどうかと思いますね。ここで中年というのは私達の世代即ち自分ではナイス・ミドルと思っている年代のつもりです。

大学生くらいの若い男女の一人歩きも時々見かけます。「地球の歩き方」などを片手に物怖じせず淡々と単独行動しているのは、身なりは粗末でも爽やかに写ります。ジョシダイセイ・グループにはチョット苦言を呈したい人たちも見かけますが、マツ止めときましよう。一人ではおとなしいが、グループになると、というのは何国人でもよくあることで、あながち彼女たちだけの問題でもないでしょうから。

この辺の外国人は人数ではまずイギリス人、次がドイツ人、あとは北欧各国の人がばらばら、観光客ではこれにアメリカ人が加わります。これらの所謂西洋人はチョット

見では何国人か区別が出来ませんが、複数の仲間で話をしているとすぐ分かります。ドイツ語はどこにいてもはっきり聞き取れます。大きい声の英語が聞こえたら大抵はアメリカ人グループです。アイリッシュもかなり。紳士の国といわれるイギリス人は、さすが、というべきか静かな人が多いように思えます。勿論全ての人がそうだというわけではありません傾向としてはそう言えるでしょう。

電車などでNに席を譲ってくれたりするのは大概イギリス人のジーサマです。Rは席を譲るといふ些細なことがナカナカさらりとできないので、日本にいるときでも誰かが立っている限りは座らない、とうことを自らに課してきました。しかし最近、ともすると座りたがっているオノレに気が付いて、愕然としています。
